

生徒指導のなかで
はぐくむ②

“共感的な人間関係”

1

島根県教育センター
教育相談スタッフ・相談セクション



生徒指導とは

【生徒指導の定義】

社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

2022年に改訂された新しい生徒指導提要。
そこには、
「生徒指導の定義」が、このように示されています。

生徒指導とは

【生徒指導の目的】

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を**支える**と同時に、自己の**幸福追求**と**社会に受け入れられる自己実現**を**支える**。

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

また、生徒指導の目的として、これまでも語られてきたことに加えて、「子どもたち自身の幸福追求」と「社会に受け入れられる自己実現」を「支える」という大きな目的も明文化されました。

生徒指導とは

すべての児童生徒が

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

すべての
教職員によって

“**支え、応援する**”営み

すべての子どもたちが

- ★「幸せになること」
- ★「自分らしく居られること」
- ★「自ら伸びていこうとすること」

これらを

- ★すべての教職員によって、★支え、応援する営み
それが「生徒指導」なのです。

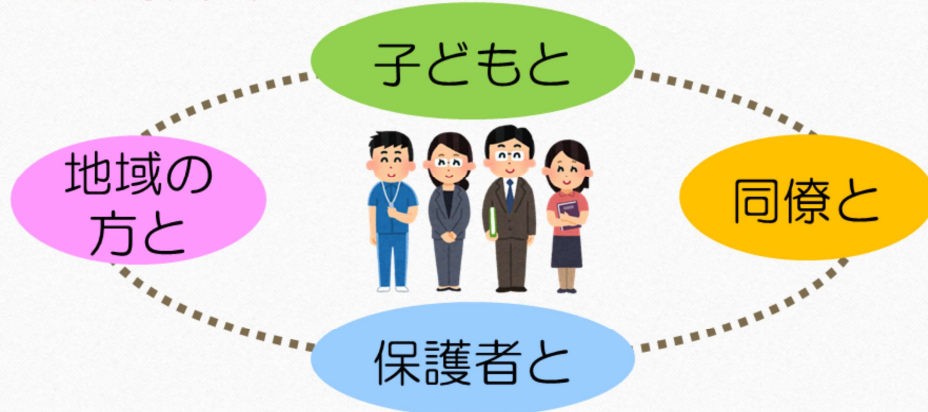
生徒指導のなかではぐくむ②

“共感的な人間関係”



生徒指導のなかではぐくむ②
今回は「共感的な人間関係」をテーマに
みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

教職員に求められている力



さまざまな人と
繋がり、よりよい関係を築く力

私たち教職員の仕事の多くは★
子ども、保護者、同僚など、
様々な人との繋がりを基盤として、成り立っています。
とりわけ、子どもたちとよりよい関係を築く力は、
私たち教職員にとって必要不可欠な資質能力であると言えるでしょう。

事例を通して
考えてみましょう



どこに焦点をあてるか？

～2つの応答を比べてみましょう～



Aさん
(小2女子)

子どもたちとかかわるときに、私たちが目の前の子どもの言動の、どこに焦点をあててかかわるかによって、応答の仕方は異なってくるものです。

これについて、事例をもとに考えてみましょう。

どこに焦点をあてるか？

～2つの応答を比べてみましょう～



Bせんせーい！！
B先生を呼んで！！
B先生がいい！！

Aさん
(小2女子)

小学校2年生のAさんは、困ったことがあると、パニックになって泣き叫ぶことがよくある子どもでした。

Aさんがパニックを起こすと、いつも支援員のB先生がAさんにそっと近づき、かわります。

するとAさんは落ち着きを取り戻すことが多くありました。

ある日の授業中、いつものように、Aさんがパニックを起こす場面がありました。ところが、その日はたまたまB先生が出張で不在の日だったのです。

Aさんは★泣き叫び、B先生を大声で呼びました。

【応答その1】



担任

B先生は、今日出張でおられないから無理なのよ…

この場面で、担任は、「B先生は今日出張でおられないこと」を説明し、Aさんを納得させようと懸命にかかわりました。
「B先生を呼んで」というAさんの言葉に対して、「それはできない」ということを伝えようとする言葉を繰り返したのです。



★けれどもこの応答をいくら繰り返しても、Aさんのパニックは収まることはありませんでした。★
困り果てる担任の目の前で、しばらくAさんは泣き続けました。

【応答その2】



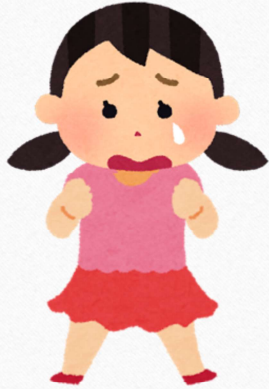
養護教諭

Aさん、B先生に
来てほしいんだねえ・・・
来てくれるといいよねえ・・・

11

そんなAさんと担任のやりとりの様子を、少し離れたところから見守っていたのは、養護教諭でした。
担任が懸命にかかわってもAさんのパニックが収まらなかったことから、養護教諭はAさんにそっと近づいて、静かに一言、声をかけたのです★

「Aさん、B先生に来て欲しいんだねえ・・・来てくれるといいよねえ・・・」

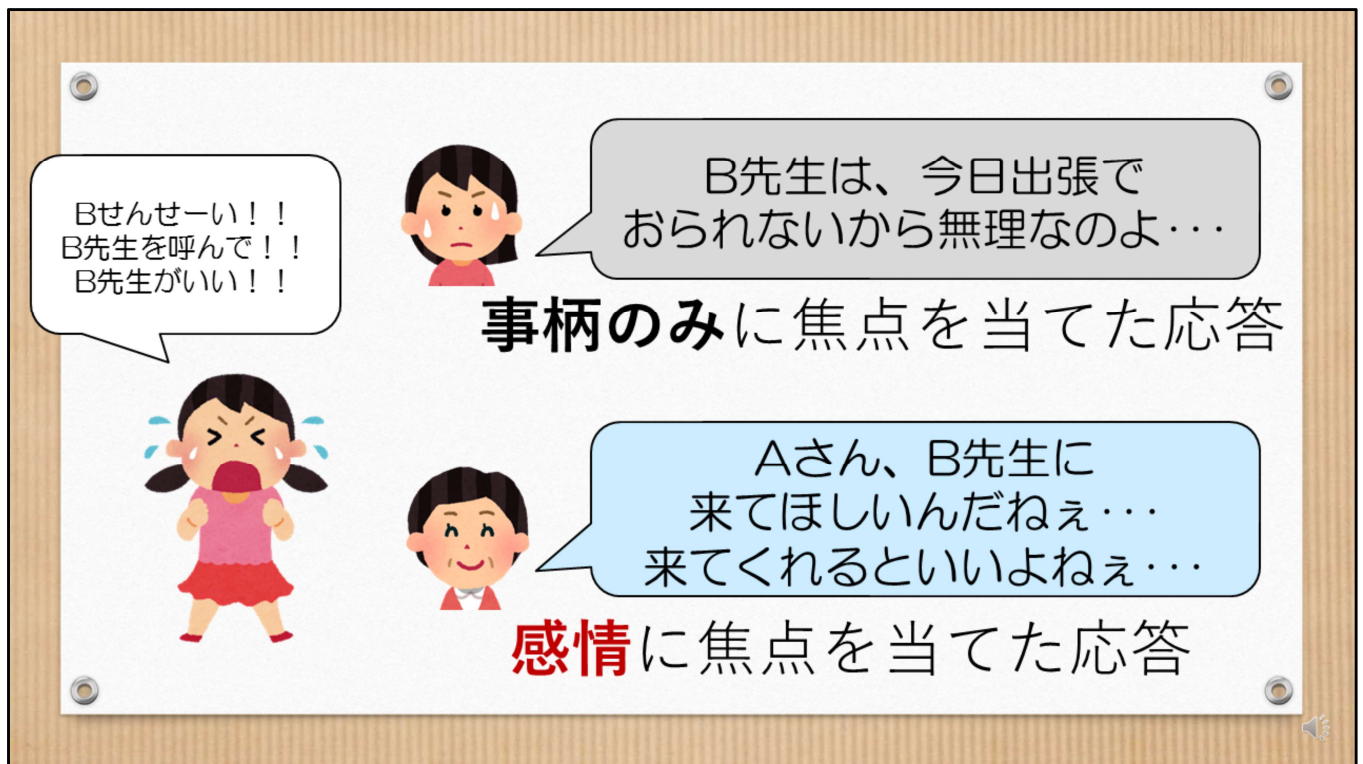


・・・うん

少し落ち着きを取り戻す

12

★すると、Aさんはこの一言で、落ち着きを取り戻し、★小さく「うん」と答え、泣き止んだのです。



この事例の、2つの応答を比較してみると、

- ★担任が最初に繰り返しかけたこの言葉は、
- ★「B先生を呼んで」というAさんの言葉にたいして
「それは出来ない」という事柄のみに焦点を当てた応答になっているといえます。

それに対して

- ★養護教諭の言葉がけは、
- ★「B先生に来て欲しい」というAさんの気持ちに焦点を当てた応答であるといえます。

このように、私たち大人が、目の前の子どもの言動の、何に焦点を当てるかによって、
声かけは変わってくると言えます。

共感的な関係づくりをする上で

意識して取り組みたいこと

目の前の相手の
感情にも焦点をあてて
かかわること



様々な他者とのよりよい関係を目指していくときに、意識して取り組みたいこと。それは、★目の前の相手の、感情にも焦点をあてて、かかわることです。

先ほどの事例では小学生を取り上げていましたが、かかわる相手が中学生、高校生であっても、意識して取り組みたいことは同じです。

事柄への応答も大事ですが、それだけで終わらせず、目の前の相手の感情へのレスポンスを意識的にしていくことが、共感的な人間関係へと繋がっていきます。

ミニ
ワーク①

こんな言葉にどう返す？

【ケース1】 あなたはどんな一言を返しますか？

あ〜つかれた！

A large, empty speech bubble shape with a tail pointing towards the top left, intended for the student to write their response to the scenario.

15

それでは、ここでミニワークを行います。
子どもの、このような言葉に、あなたはどんな一言を返しますか？

ミニ
ワーク①

こんな言葉にどう返す？

【ケース2】あなたはどんな一言を返しますか？

新しい部活動を作ってください！

A large, empty speech bubble with a rounded rectangular shape and a tail pointing towards the top left. It is intended for the user to write their response to the question 'あなたはどんな一言を返しますか？'.

2つのケースについて、考え、シートに記入をしてみましょう。
記入が終わったら、ペアやグループで、その内容について、話し合ってみてください。

ミニ
ワーク①

こんな言葉にどう返す？

【ケース2】あなたはどんな一言を返しますか？

動画は一旦停止



記入→話し合い

新

17

記入と話し合いをしている間、動画は一旦停止をしてください。
話し合いが終わったら、動画の続きを再生してください。★5秒

【ケース1】

あ〜つかれた！



何で！？

〇〇してるから
だよ

それくらい
大丈夫

△原因に焦点をあてて反応する
△安易に励ます

18

ケース1

「あー疲れた」という子どもの言葉に対して、理由や原因を聞き出そうとしたり、決めつけたりすること、「大丈夫大丈夫！」といった言葉がけ。これらは、しばしば大人がやってしまいがちな応答の一例かもしれません。

【ケース1】

疲れたねえ

どうしたの？

あ〜つかれた！

お疲れさま😊

そうか〜
頑張ってたもんね

etc.



◎感情に焦点をあてて反応する

19

「あ〜疲れた〜」のその言葉を
「疲れたねえ」と繰り返してもらったり、
温かい表情や声のトーンでの言葉かけをしてもらったりすることで、
気持ちに寄り添ってもらえた感覚をもつことができると、
子どもたちは、少し元気や前向きな気持ちをもつことができるのではないでしょ
うか。

【ケース2】

それはできません

新しい部活動を作ってください！

顧問もいないし
場所もないよ



何言ってるの

△できるかできないかのみを答える
△話を聴かずにあしらう

20

ケース2

このような子どもの訴えにたいして、
その思いを確かめることなく、

「できるか」「できないか」という事柄のみの応答になってしまったとき、
子どもはどのような気持ちになるでしょうか。

【ケース2】

新しい部活動を作ってください！



えっ新しい部活？
例えばどんな？

どうしてそう
思ったの？

etc.

- ◎感情に焦点をあてて反応する
- ◎話を聴こうとする

21

「できるか」「できないか」についての応答も必要ではありますが、その前にまず、どんな思いや願いがあって、このようなことを言ってきたのかという
その子の気持ちに焦点を当て、かかわっていくことが大切です。

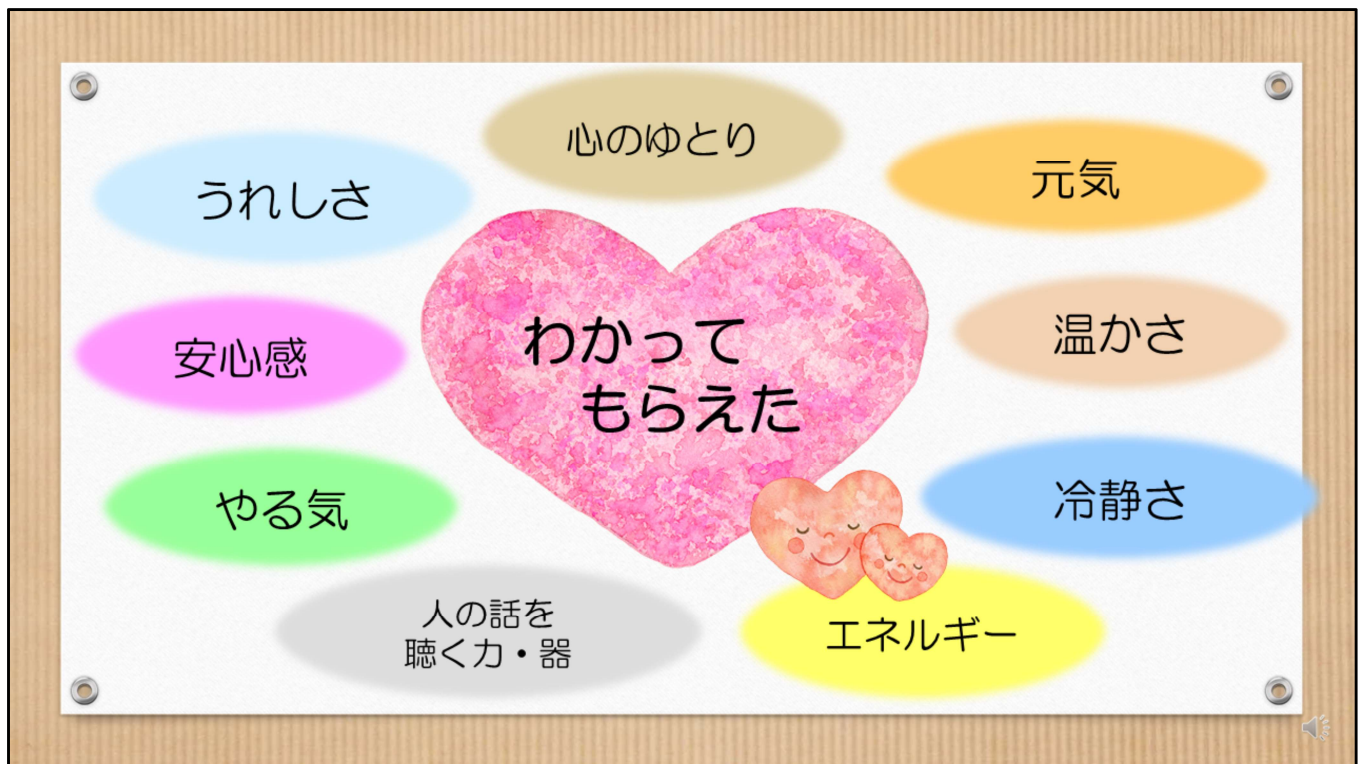
人は 誰もが・・・

自分の気持ちを
わかってほしい



人は、大人も子どもも、
誰もが、
自分の気持ちを★「わかってほしい」そのような存在です。

誰もがもっている、この「わかってほしい」という感覚にフォーカスし
誠実にかかわっていくことで、
「共感的な人間関係」を作っていきたいものです。



自分のことを「わかってもらえた」という感覚を持つことができると、★
人は
安心感を持ち、★元気が出たり、★やる気が出たりするものです。★
少し冷静さや心のゆとりを取り戻すこともあるでしょう。

また、★「人の話を聞く力」は、「聴いてもらって分かってもらえた」という体
験を積み重ねることを通して
育まれていくものであるとも言われています。

日々の生徒指導を通して関係づくりを

○「関係性」は**日々の小さなやりとりの積み重ね**で作られていくもの

- ・こちらからあいさつ
- ・何気ない雑談
- ・ちょっとした声かけ



24

日々の生徒指導を通して、子どもたちとの温かで共感的な関係を目指していきたいものです。

人と人との「関係性」は、何か特別な大きなことに取り組むことによってできるものではなく、日々の、小さな、ささやかなやりとりの積み重ねによって、作られていくものです。

日々の生徒指導のなかで、みなさんが、これまでも取り組んでこられたこと、そのかわりの一つ一つが、子どもたちとのよりよい関係に、すべて繋がっているのです。

ミニ
ワーク②

かかわりの言葉の引き出しを豊かに

温かで共感的な人間関係をつくるために

- ・あなたが意識的に使いたい言葉
- ・子どもたちの心に届く言葉



| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |

最後に、子どもたちとの温かな関係づくりのために、意識して使いたい言葉がけについて、振り返り、書き留めておくミニワークを行います。

生徒指導の中で意識的に使いたい言葉、大事にしたい言葉、自分にとってしっくりくる言葉は、人それぞれ異なっているものです。温かで共感的な人間関係をつくるという視点で、日頃自分自身が使っている言葉に思いを馳せてみましょう。シートの吹き出しの中に、あなたにとっての「大切な言葉」を、書き留めてみてください。

ミニ
ワーク②

かかわりの言葉の引き出しを豊かに

温かで共感的な人間関係をつくるために

- ・あなたが意識的に使いたい言葉
- ・子どもたちの心に届く言葉



シートに記入しましょう < 記入時間約2分 >
～記入中も動画は再生 (BGMあり)～

Three empty speech bubble shapes for writing notes.



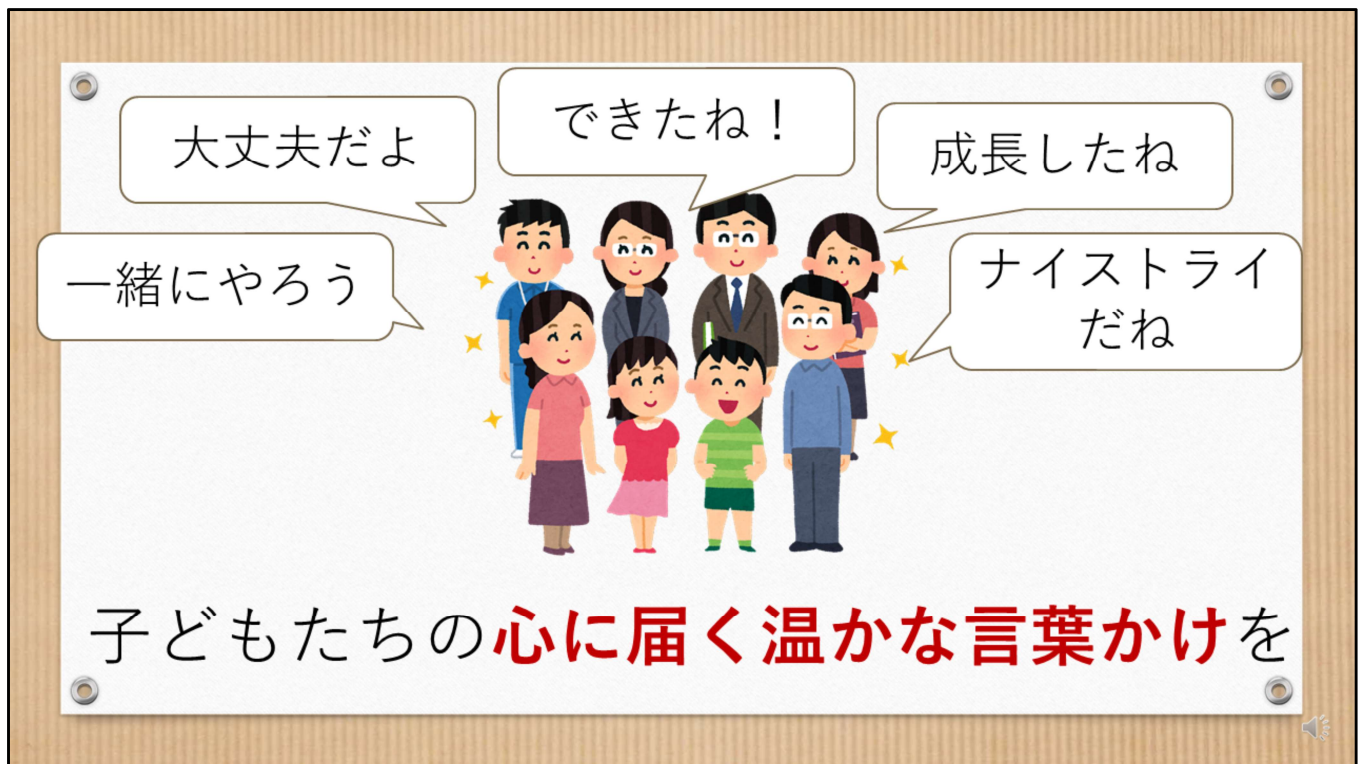
BGM～約2分経過後次スライドへ～



自分なりの、「大切にしたい言葉」を日頃から見つけておき、
自分の「言葉の引き出し」にストックしておくことで
子どもたちへのかかわりに繋げることができたら、素敵ですね。



また、時間があれば、書き留めた言葉や、その言葉にこめた思いについて、互いに交流し合うことも、自分の「かかわりの言葉の引き出し」を豊かにすることに繋がるでしょう。



教職員みんなで、子どもたちの心に届く、温かな言葉かけをしていきたいものです。

2秒

生徒指導とは

すべての児童生徒が

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

すべての
教職員によって

“支え、応援する”営み

すべての子どもたちの
幸せと成長を願って

日々の生徒指導を通して、
教職員みんなで、
子どもたちを支え、応援していくことができますように。

生徒指導のなかではぐくむ②

“共感的な人間関係”



【参考・引用】

- ・生徒指導提要（文部科学省）2022年
- ・気にかかる子どもに関するワークシート集（島根県立松江教育センター）2016年
- ・子どもの問題 いかに関係するか（魚住絹代）2013年 PHP新書
- ・コーチングで学ぶ「言葉かけ」練習帳（石川尚子）2019年 ほんの森出版
- ・教師たちのとっておきの言葉（諸富祥彦 他）2022年 図書文化社

【BGM】

- ・甘茶の音楽工房 <https://amachamusic.chagasi.com/>

以上で本研修プログラムは終了となります。
お疲れ様でした。